



那覇市立教育研究所

# 研究所だより



那覇市金城3-5-3

Tel 917-3441 Fax 857-8681

naha-c@naha-c.nahaken-okn.ed.jp

所長 田中 浩三



一年のスタートに当たつて

所長 田中 浩三

「明けまして わめでどうございます」

新年早々すばらしい天気に恵まれました。さ

やかな雰囲気の中で「一年の計は元旦にあり」の言葉通り、今年こそは「目標を立て」「方策を考え」「着実に実施する」ということ（言うは易しですが）を頑張つてすばらしい一年にしたい等、気持ちも新たにしながらのスタートでした。

さて、当研究所においても一年のスタートにあたつて次の視点からしつかり取り組んでいきたいと考えています。当研究所の方針には「広く教育に役立つことを願つて、直面している課題を取り上げ教育実践に寄与する」とあり、学校教育の多くの課題の中で、当研究所の果たす役割を考えたとき、次の二点を着実に実践する必要があります。

## 一 学力向上を図る

児童生徒の学力向上を図るために、「教師の授業力を高めること」が常に求められています。当研究所では「初任入研め」や「十年研」等数多くの研修を通して次のこと力を入れていきたいと考えています。

①実践の中で教師が「何を課題とし、どのように進めるのか」等を把握し、具体的な事例等をもとに教師が課題解決ができ授業実践に活かせる研修に努める。また個々の多様な考え方や実践を活かすことができる参加型の研修をもつ。

②学力向上に関する校内研修等へ直接参加することを通して、学校の実情を把握しながら助言したり共に取り組んだりすることを大切にする。

③各種学力調査の分析等を通して各学校や児童生徒の実態把握に関する情報を提供し、学校や家庭の効果的な学習活動の取組に寄与する。

## 二 ICT活用の充実を図る

文科省が二〇二〇年までに情報端末一人一台を推進する中、那覇市では昨年電子黒板が小学校六年と中学校全クラスに導入されました。また、今年二月にはタブレット端末を各小・中学校各三校に導入されます。当研究所では、各学年においてICT機器が十分活用できるよう操作法のみならず授業での活用法等の研修を行い、ICT活用の教育活動の充実に取り組んで参ります。当研究所は、各学年ご支援・ご協力よろしくお願い致します。

## 次年度教育研究員 募集集中！〆切り間近

●新年を迎える平成25年度 後期研究員の研究も折り返し地点を過ぎました。テーマ検討から頂立て、中間検討会を経て、検証授業の実施・考察・まとめの時期に差し掛かり充実した日々を送っています。次年度の募集締め切りが近付いています。多くの応募をお待ちしています。



## 第101期 研究員 検証授業が行われました



12月13日(金) 村吉 優子 研究員  
1月10日(金) 山里 育 研究員

12月17日(火) 新里 和也 研究員  
1月16日(木) 池田 尚子 研究員



検証授業では、仮説1の手立てであった「視点を持たせて読ませる」部分が明確ではなかったという課題が残りました。ここでは、気持ちを読み取らせ、同じような気持ちになった経験を引き出すことが重要だったのではないかと感じました。残りの2時間、今回の指導助言を生かして修正を図り、最後の感想交流会へつなげていきたいと思います。(村吉)



「見えるものの予想」からの課題は比較的設定しやすいが、「見えないものの予想（昔の暮らしの様子）」からの課題は、どのような手立てをしたら子どもたちの理解が深まり一人が自分の調べたい課題を設定できるのか、子どもたちの実態を把握し考えて実践していくかといけないことが分かった。子どもたちに「社会的な見方や考え方」をもたせるために社会的事象に関心を持たせ、自ら調べてみたいと思う課題づくりをしていきたい。(新里)



検証保育では、子ども達が作った絵本を読み聞かせる場面を見ていきましたが、子ども達の姿が個々によって異なるため、検証としては難しい場面だったと思います。表現の型ではなく、気持ちを育てるというねらいであるため、どのように姿を捉え仮説を検証していくかが、これから課題だと思います。これまでのデータをしっかりと見直し、何が結果としていえるのか考えていきたいと思います。(池田)



今後の指導に生かしていく点がたくさんありました。根拠を示してしっかりと説明されることや発表後の質疑応答させることにも課題がありました。数学的な見方や考え方を育む時に、生徒が自ら考え気づけるように展開させる必要性の大切さを感じました。

今後は中間検討会Ⅱに向けて、授業のワークシートや録音データや、事後アンケートや形成テストを行い、しっかりとまとめていきたいと思います。(山里)



## 平成25年度 沖縄県学力到達度調査結果

昨年12月に行われた「沖縄県学力到達度調査」の沖縄県と那覇市の各教科平均正答率を報告します。分析や課題となる問題の指導の重点等の詳細については、後日HP等に掲載いたします。

小学校		国語	算数
3年	那覇市	66.8	79.4
	沖縄県	66.5	78.0
	県との差	0.3	1.4
5年	那覇市	66.0	70.3
	沖縄県	63.8	68.4
	県との差	2.2	1.9

中学校		国語	数学	理科	社会	英語
2年	那覇市	71.5	50.6	41.0	53.0	56.6
	沖縄県	70.2	47.5	39.1	52.5	53.8
	県との差	1.3	3.1	1.9	0.5	2.8

大募集！



## 電子黒板 活用に係るインストラクター派遣

## 第101期 研究員 所内講座・研修

## コミュニケーションスキル①講座(12月19日)

講師：吉田文子先生（セルフコンフィデンス沖縄）

「他者との感情の共有」という言葉がとても印象に残りました。社内トラブルの例をもとに話し合ったのですが、やはり自分の感情を入れないで相手の話を聞くということが難しく、これから課題であると感じました。

教師としての立場で考えると、これまでの子ども達や保護者に対するコミュニケーションはどうだったんだろうと反省させられます。今日の講座で学んだことを生かして、内的・外的コミュニケーション力を高め、実践していきたいです。（村吉）



コミュニケーションとは相互に作用する「情報の伝達」と「感情の共有」であること。また、「感情の共有」を図りながら、他者と関わっているということを学びました。

人の全身がコミュニケーションツールであることもしっかりと認識して、人と接することが大切であることを改めて感じました。非言語（しぐさ、体型）などにも気を配っていきたいと思います。（山里）



吉田文子先生



今年度導入された電子黒板の授業での活用を促進し、よりわかる授業づくりを推進するために各小中学校へインストラクターを派遣します。

申込期間 1月22日(水)～2月7日(金)  
派遣期間 1月27日(月)～3月28日(金)

※全体研修や学年研修、個人での研修も可能です。  
申し込みは研究所（玉村）まで



## エクセル活用講座(12月24日)

講師：上地弘美先生（株式会社 興洋電子）



講座では基本的な使い方から学校現場で利用が多い部分のスキルなどわかりやすく教えていただきました。今まで難しい操作をしていたことを裏ワザでできることを知り驚きました。特に行事表の作成方法は今までの半分の操作で作成できる方法を知ることができました。また、複数のシートを画面上で同時に見ながら作業ができる方法をしがれで作業の効率が上がりそうです。（新里）

今回の講座では、関数計算など、いくつか疑問に思っていたことが解決できたため、これからはもっと上手に使えるようになるのではないかと思います。さらに、集計についてのシートの使い方など、効率的に使うためのコツも教えていただけたので、とても勉強になりました。（池田）



上地弘美先生

図書室にて  
貸し出しして  
います♪

③協同学習入門 ●基本的理解と51の工夫』  
杉江修治 著 ナカニシヤ出版 2011

協同の原理をしっかりと踏まえた学級経営により、子どもの動きがみるみる変わる！形ばかりの「活発な授業」に陥らないために、本当の効果を生み出すための原理を丁寧に解説し、授業で工夫すべき51のポイントを具体的に紹介する。

【ナカニシヤ出版 HPより】

